



天文資料

2019年11月号

令和元年度 第8号 (11月号)

令和元年10月26日

発行：佐世保市少年科学館
佐世保市少年科学館

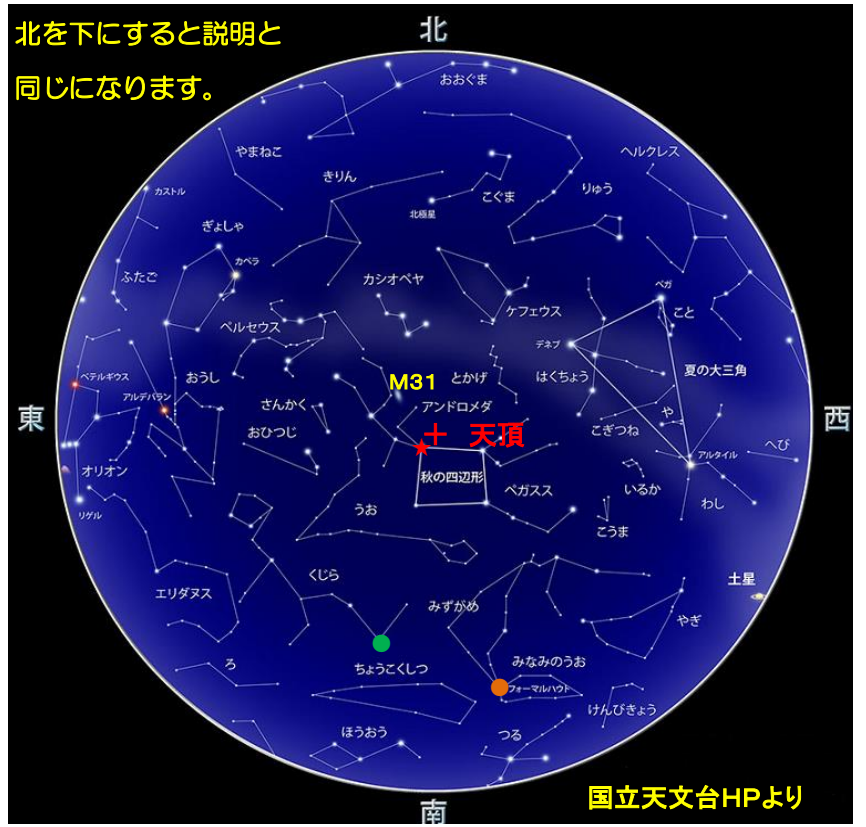


＜秋の夜空は明るい星は少ないですが、大型の星座がたくさんあります＞

9月の台風15号に続き、台風19号が大きな被害を各地にもたらしました。「50年に一度」「100年に一度」という声を頻りに聞くようになっているのが気になります。これから抜けるような秋の空を期待したいものです。

11月の星空は、天頂付近に「秋の四辺形」が見えます。北に体を向け、思い切り首を真上に向けてと、二等星2つと三等星2つが形よく並んでいるのがわかります。ここから北極星に向かって目を移していくと、カシオペア座(Mの形)とケフェウス座(細長い五角形)を見つけることができます。

「秋の四辺形」に戻り、右下の二等星アルフェラッツ★から北東に向かって直線的に3つほど星をたどると、そこにアンドロメダ座があります。有名なアンドロメダ銀河(M31)は、この中央部にあります。その先に数個の明るい星がありますが、ここがペルセウス座になります。



また「秋の四辺形」に戻り、南の方に目を向けると、秋の夜空でたったひとつの一等星フォーマルハウト●(みなみのうお座)が見つかります。この辺りには二等星デネブカイトス●(くじら座)のほかにも明るい星がなく、星空がぽかんと空いたようになっていますが、ここにうお座、くじら座といった大型の星座があります。形をとらえるのは難しいですが、星図を手にも星をつないでみてください。

東の低い空に明るい星々が見え始めました。華やかな冬の星座が出番を待っているようです。

＜恒星界から飛来し太陽系を通り過ぎるボリソフ彗星＞

恒星界(太陽系外)からやってきた彗星が初めて発見されました。この彗星は2019年8月30日に発見されたものです。恒星界から飛来した天体としては2017年の小惑星オウムアムアがありますが、これが初めて発見された恒星界からの飛来物でした。したがってこの彗星は2番目の飛来物となります。この彗星は12月7日に太陽に最接近し、地球に最接近するのは12月29日と計算されています。高速で移動しているため、太陽の近くで大きく軌道が変化する以外はほぼ直線で太陽系を通り過ぎていきます。しし座からコップ座、うみへび座へと移動していきませんが、明るさは15等級です。見るのはかなり難しいです。



AstroArts 掲載写真より